

第2回生命科学科キャリアアップ夏合宿 感想文

今回の合宿は一泊二日という短い期間でしたが、非常に有意義な物であったと思います。テーマは今よく話題になっている再生医療ということで、最新の研究とはいったいどんなものかという事に触れる事が出来たと思います。またそれだけではなく、新しいからこそこの問題や、実用を現実とするための課題というのも学ぶことができ、自分達が日頃いかに良い部分しか見ていないかという事を理解しました。そして、その陰の部分を知ることにより良いものが作りだせるということの大事さを知ることが出来ました。

学生による発表では、他の人が調べた内容はもちろんの事ですが、それ以上にどのような道に進みたいかというところが興味深かったと思います。皆がどのように考えどのようにしていきたいか、また自分が何故その道にいきたくないか、その為にはどうすべきか、という事を考える貴重な時間であったと思います。

来年は自分達は発表を聞く側になるので、後輩にもこの合宿を機会に一度自分を見つめなおす事が出来るように、質問をしていきたいと思います。最後に貴重なお時間をいただき、私達のために講義してくださった先生方をはじめ、お世話になったすべての方々に感謝の意を込めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。(Y.T)

キャリアアップ合宿は、想像していたよりもずっと楽しかったです。特に、夜にお酒を飲みながら先輩や同級生と色んな話しができたのがよかったです。また、部屋はキレイだったし、ご飯もすごくおいしかったです。パワーポイントを使っただけの発表は、どう伝えようか考えたり準備をしたりするのは大変だったけど、うまく行ってよかったです。すごく深いところまで調べ学習していた人もいて、すごいなと思いました。講義をして下さった先生方の話はどれも興味深く、90分が長くは感じませんでした。有意義な合宿でした。(川原佑太)

私はこのキャリアアップ合宿で自分の将来について真剣に考えることが出来ました。今までの私は、自分の将来について研究者になりたいという目標は持っていたものの、その理由は周りの人達の勧めであったり、研究者に対する憧れであったり、とても漠然としたものだったことに気づかされました。合宿中の講義やプレゼンテーションを通して、研究者になるために、ただ研究者になりたいと考えるのではなく、興味があって研究したいと思える分野を見つけること、何が今必要とされているか、研究者になる人には何があって、研究者になれなかった人は何が足りなかったかなどを考える必要があると思いました。これを活かしてこれからは将来のことも頭に入れながら授業などに臨んで、有意義な時間にしていきたいと思いました。

最後にこのような有意義な会をひらいて頂きありがとうございました。(A.K)

今回のキャリアアップ合宿は将来の進路を考える上で非常に為になる合宿になりました。まず旅館は施設が充実していたし、料理もとてもおいしくてよかったです。プレゼンテーション発表はみんなしっかりしたプレゼンテーション発表を聞いて刺激になりました。講師の先生方の話は普段の勉強だけではわからないような最新の話が聞けて興味深かったです。自分にとって非常に充実した合宿になってよかったです。(Y.K)

今回のキャリアアップ夏合宿は、実際に研究をされている先生方の生の声を聞くことができたという点で非常に有意義な体験となりました。普段私が気にするのは研究内容とそれが私たちにもたらす恩恵ばかりです。しかし先生方は発生・再生医学というテーマを通して、研究を続ける厳しさや、研究が夢のような技術を次々と生み出している訳ではなく問題点もたくさんあるのだということを教えてくださいました。また、研究者に最も必要なものは何かという質問に対し、論理性、忍耐力、チャンスをつかむ力などが挙げたことも印象に残りました。どれも一朝一夕には手に入らないものですが、実際に研究者として働く先生方の実感なのだろうと思います。今回の夏合宿で学んだことを学校生活にいかし、勉強に励みたいです。(M.S)

今回の夏合宿では、3人の講師の先生方をお呼びして各々の講義を聞かせて頂いたり、僕たち2年生が事前に用意してきたパワーポイントを使って教授の先生方や3年生の先輩方の前でプレゼンテーションをさせて頂く機会を頂まして、とても貴重な経験となりました。とりわけ印象に残っているのは、畠賢一郎先生の講義の中で、「再生医療を斬る」という表現があったことです。再生医療に対して一般の方の思い描く期待は大きい一方で、現実問題として再生医療の分野で利益を上げている企業はほとんどないという事実があるなど、現実と理想との間はまだまだ大きく問題は山積みであるとおっしゃられていました。そういう中で私達のような人材に求められるのは、再生医療の現実に対して専門家として正しい認識を持つと共に、その問題点の改善に向けて何ができるのか、しっかりと考えて、研究に取り組んでいくことだろうと思います。(K.M)

キャリアアップ夏合宿には初めての参加となりましたが、最も印象深かったのがプレゼンテーションでした。最初の発表ということで緊張しましたが、夏休みを利用して参加した阿蘇シンポジウムで拝見した心臓の再生医療をメインに研究に対する展望などを発表しました。1年次に集団でのプレゼンは経験していましたが、1人で様々な質問に臨機応変に対応するのは難しいと実感しました。それと同時に、今回の合宿でそのような経験を積めて良かったと思います。

3人の講師の方々からの講義もとても刺激になりました。実験動物に関する知識は将来必須のものであり、神経系は腫瘍化しやすいため細胞治療が困難だということは初めて知りま

した。特に印象深かったのが産業化についてでした。その中でも *ex vivo medicine* という考え方、つまり病変部の臓器のみを取り出して放射線などの治療をしまた体内へ戻すことで副作用を最小にするという手法は、医師にとっても患者さんにとっても双方にメリットがあり、ぜひ実現してほしいものだと思います。

この夏合宿を経て研究という職についてより現実性を帯びて捉えるようになったと思います。(A.K)